

子ども用



伝道地便り

2024年第2期 ユーロ・アジア支部

第1話「あなたは特別な存在」	ロシア
第2話「神の守りを求める祈り」	ロシア
第3話「宇宙へ」	ロシア
第4話「心臓にあいた穴」	ウズベキスタン
第5話「神の御手の中」	ジョージア
第6話「未来を知っているお方」	アルメニア

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか挙げていきます。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. あなたは特別な存在

ロシア



サシャ

ある晩遅く、9歳のサシャは北極圏にある自宅に急いで帰ってきました。外の冷たい雪の中で遊んでいたのが暖まりたくなったのです。もう寝る時間でもありました。

家に入ろうとした時、サシャは誰かが自分に話しかける声を聞きました。

サシャはその声を耳で聞いたのではありません。彼女はそれを頭の中で聞いたのです。まるでその声は頭の中に思い浮かんだようでした。

「あなたは特別な存在です」と温かくて優しい声が聞こえました。

サシャはどうして特別な存在なのでしょう？ それは彼女が「地の果て」という意味のヤマルと呼ばれるロシア極北に住んでいるからでしょうか？ 彼女の家は確かに地の果て、世界の北のはしと思える場所にありました。

あるいは、彼女がカンティーと呼ばれる先住民族の一員だから特別なのでしょうか？ 彼女は

世界に3万1千人ほどしかいないカンティー族の1人だからです。

サシャはなぜ自分が特別なのかよくわかりませんでした。しかし、特別と言われるのは嬉しいことでした。彼女の心は喜びでいっぱいになりました。

しかしその後、彼女はいろいろな問題に直面しました。学校では、他の子どもたちが彼女につらくあたってきました。家では、彼女のずっと年上の姉、オルガがお酒を飲むようになり、お父さんとお母さんもお酒を飲むようになりました。このようなわけで、サシャは家にいても学校にいても楽しくありませんでした。

サシャは、自分は本当に特別な存在なのだろうか？と考えました。人はなぜ生きているのか、疑問にも思いました。

テレビで、ある女性が人は子どもを産むために生きているのだと言っているのをサシャは聞きました。サシャは納得できなかったので、お母さんにたずねました。「人はなぜ生きているの？」お母さんの答えはテレビの女性と同じでした。サシャはまだ納得できませんでした。

それから数年がたちました。サシャは生きる意味について考え続けていました。

そんな彼女にアルヨナという新しい友だちができました。アルヨナはすべてにおいてサシャのあこがれでした。アルヨナは幸せそうでした。彼女は部屋中を照らすキラキラと輝く笑顔を持っていました。

サシャはアルヨナのように幸せになりたいと思いました。彼女はアルヨナが不幸な境遇にもかかわらず、喜んでいることを知って驚きました。アルヨナは自分の両親を知らず、長いこと孤児院にいたのです。その後、彼女はセブンスデー・アドベンチストの家庭の養子となって、引き取られたのでした。

アルヨナはサシャを自分の家族に紹介しました。サシャはまるで本当の娘かのように迎えてくれたその家族が好きになりました。

アルヨナの家族はサシャを愛し、神様について教えてくれました。アルヨナの家族を通してサシャは、人は神様によって造られ、生かされていることを知りました。サシャは、神様によって造られたので、自分が特別な存在であることに気づきました。

今日、サシャはかつてないほど幸せです。彼女は自分がなぜ特別なのかを知っています。彼女は神の子だからです。「私は神のために生きるのです」と彼女は言っています。

今期の 13 回献金の一部はロシア極北にあるサシャの故郷サレハルトに特別なセンターを開設するために用いられます。そのセンターでは子どもも大人も、一人ひとりを特別な存在として見てくださる神様について学ぶことができます。6 月 29 日に皆様がおさげくださる多くの献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・子どもたちに地図でロシアの位置を示しましょう。さらに、北極圏のただ一つの町であるサシャの故郷サレハルトの場所を示しましょう。
- ・写真の中でサシャは伝統的衣装を着ています。
- ・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.
- ・ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/esd-2024.
- ・この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の目標の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」 No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」 No.6）

「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」 No.7）

詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

1886 年、最初のアドベンチスト宣教師がロシア帝国に到着しました。その宣教師の名前は、L.R.コンラディです。彼はロシア人の改宗者にバプテスマを授けたあと、逮捕されました。ロシア正教会は人々が他の教会に改宗することを望まなかったため、コンラディは、「ユダヤ教」的な異端を広めたこと、ロシア人を他の信仰に改宗させたこと、公にバプテスマを行ったことの罪で告発されたのです。ロシア人の 47.4 パーセントだけがキリスト教徒で（41 パーセントがロシア正教徒、6.4 パーセントがその他のキリスト教徒）、38.2 パーセントが無宗教、6.5 パーセントがイスラム教徒、約 8 パーセントが “その他” です。

2. 神の守りを求める祈り

ロシア



ダニール

ダニールはとても興奮していました。友だちと大好きなそり遊びに行くからです。

ある日曜日の午後、ダニールはお父さんがそりを車のトランクに積むのをうれしそうに見ていました。それは、普通のそりではありません。紫色のスノーレーサーです。スノーレーサーは、シートとハンドル、そして両側にスキーの板がついているそりです。

そりがトランクに積まれると、ダニールは車に飛び乗りました。車には、お父さん、お母さん、そしてダニールの友だち4人も一緒に乗りました。

出発する前に、お父さんはお祈りをしました。

「神様、どうぞ私たちを祝福し、道中をお守りください、アーメン」

20分後、彼らはそり遊びをする丘に到着しまし

た。そこには、セルゲイおじさんの車に乗って来た友だちが、先に到着して、ダニールたちを待っていました。

ダニールと友だちは夢中で遊びました。その面白かったこと！

ダニールはスノーレーサーで丘を滑り降りるのも、友だちと遊ぶのも好きでした。ダニールは大喜びです！

2時間後、子どもたちはまだ楽しんでいましたが、大人たちは寒くて疲れてしまいました。家に帰る時間です。

子どもたちは2台の車に乗り込みました。しかし、お母さんはまだ出発する準備が出来ていませんでした。濡れたブーツを脱いで、乾いた靴に履き替えたかったです。

しかし、セルゲイおじさんは早く帰りたいようです。「先に出発するから向こうで会おう」と彼は言いました。「先に行って熱いお茶を準備しとくよ」

寒いゲレンデのあとの温かいお茶！ みんな、そのアイデアに賛成しました。

お母さんが靴を履き替えるまで、あまり時間はかかりませんでした。5分後、出発の用意が整いました。

お父さんは、お祈りをしました。

「神様、どうぞ私たちを祝福し、道中をお守りください。アーメン。」

出発し、少し走ると、恐ろしい光景が彼らの目に飛び込んできました。車の事故です。1台の車が道路脇の雪山につっこみ、もう1台の車は木に衝突していました。

「あれはセルゲイおじさんの車ではないか？」雪に突っ込んだ車を見て、お父さんが言いました。

お父さんが車から出ると同時に、セルゲイおじさんも雪に埋もれた車から出てきました。

「大丈夫かい？」とお父さんがたずねました。

おじさんも他のみんなも無事でした。

お父さんは助けを呼び、直ぐに救急隊員が到着しました。

救急隊員たちは木にぶつかった車を切断し、中に閉じ込められていた運転手を救出しました。

そのドライバーは飲酒運転をして、反対車線を猛スピードで走っていたことがわかりました。もう少しでセルゲイおじさんの車と正面衝突するところでした。セルゲイおじさんはギリギリのところでハンドルを切り、雪に突っ込んだのでした。そして酔ったドライバーは、車のコントロールを失い、木に衝突したのでした。

ダニールは、誰も怪我しなかったことは奇跡だということに気づきました。もしお父さんの車がセルゲイおじさんの車のすぐ後ろを走っていたら、その酔っ払った運転手は、おじさんの車が道からそれたあと、自分たちの車にぶつかっていたかもしれません。お母さんが靴を履き替えるのを待っていたおかげで、大きな事故からまぬがれたのです。

ダニールと仲間たちはほっとして抱き合ったあと、お祈りをしました。

「神様、みんなが助かって、生きていていてことを感謝します」とお父さんは祈りました。

最近、ダニールはどこかに行く前に必ずお祈りをします。

「神様はお祈りを聞いてくださるんだ。神様がどのようにお祈りにこたえてくださるか、僕は、この目で見てわかっているんだ」とダニールは言いました。

今期の 13 回献金の一部はロシア極北にあるダニールの故郷サレハルトに特別なセンターを開設するために用いられます。そこでは子どもも大人も祈りを聞いてくださる神様について学ぶことができます。6 月 29 日に、献金のご準備をお願いいたします。

〈お話のヒント〉

- ・子どもたちに地図でロシアの位置を示しましょう。さらに、北極圏のただ一つの町、ダニールの故郷サレハルトの位置も見つけましょう。サレハルトは 1595 年に建てられた人口約 5 万人の町です。
- ・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.
- ・ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/esd-2024.
- ・この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるよう支援する」（霊的成長の目標 No.7）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

- ・夏の終わりには、ハチミツとリンゴとナッツの収穫を祝う、「スパ」と呼ばれる民族信仰に根ざした 3 つの祝日があります。



3. 宇宙へ

ロシア



アイヴァン

書くことが大好きなアイヴァンは、作ったお話を募集する大きなコンテストが行われることを知ってワクワクしました。宇宙についてのお話を書くよう、ロシア中の子どもたちに呼びかけがなされました。そして、素晴らしいお話を書いた人は、本物の宇宙飛行士に会うことができました。

アイヴァンは実際に宇宙に行った人に会えたら、どんなに素晴らしいだろうと思いました。また、宇宙についてのお話を書いたら、どんなに楽しいだろうとも思いました。

アイヴァンは座って地球から遠く離れた小惑星に行った宇宙飛行士たちのお話を書いてみました。その原稿は3枚の用紙いっぱいになり、題名を「No Way Back (引き返すことができない道)」と名づけました。

アイヴァンはそのお話をお父さんに読んでもらいました。お父さんはいくつかの単語のつづりやその他の間違いを見つけ、アイヴァンがそれを

校正するのを手伝ってくれました。それからアイヴァンは、この作品を神様が祝福くださるようお祈りしてからコンテストに送りました。

1か月がたち、2か月たち、3か月が過ぎました。アイヴァンはコンテストに入賞したかどうか、結果をずっと待ち続けました。

ついに、入賞したことを知らせる手紙が届きました！ 彼の書いたお話が、同年代のグループの中で最高の作品として選ばれたのでした。アイヴァンはとても喜びました。彼はお祈りしたことを思い出し、神様が祈りを聞いてくださったことを知りました。

アイヴァンは表彰式で宇宙飛行士に会うために、海辺の町を訪れるよう招待されました。彼はとてもワクワクしました！

しかし、次の瞬間、彼はその式が安息日に予定されていることを知りました。そして、安息日を守るために、自分は式に出席することはできないと思いました。

アイヴァンはひどくがっかりしました。神様は彼の祈りにこたえて一等賞をとるお話を書かせてくださったのではなかったのでしょうか。

彼は再び祈ることにしました。神様は祈りを聞いてくださるお方であることを知っていたからです。

「どうしてこのようなことが起こったのでしょうか？」と彼は祈りました。

「表彰式はぼくが行けるように安息日ではなく、日曜日か月曜日でもよかったのではないのでしょうか？」

表彰式で宇宙飛行士に会うはずだった安息日、アイヴァンは教会で神様と過ごすのでした。

ちょうどその頃、宇宙飛行士は物語のコンテストの入賞者の1人が表彰式を欠席したことを知りました。彼はとても素晴らしいお話を書いた子どもに会いたいと思いました。そこで、少年の住む

ザオクスキーの町まで行くことにしました。

しばらくして、宇宙飛行士がアイヴァンのセブンスデー・アドベンチストの学校にやってきた時、少年はとても驚きました。子どもたちは全員、講堂に集められました。宇宙飛行士が壇上に立つと、校長先生がアイヴァンに前に来るように言いました。子どもたち全員が拍手をし、声援を送る中、アイヴァンは壇上へと進みました。

喜びいっぱいのアイヴァンを、宇宙飛行士は祝福しました。

「世界は君のようなクリエイティブな人をもっと必要としているよ」と彼は言いました。

それから彼はアイヴァンに、宇宙についての本のセット、帽子を2つ、宇宙飛行士が宇宙で宇宙服につけているようなバッジをいくつか贈りました。

アイヴァンにとってこれ以上の喜びはありませんでした。神様は彼の祈りを聞いてくださったのです。彼が神様に忠実であり、安息日を聖〔きよ〕く守ったために、アイヴァンだけが本物の宇宙飛行士に会うことができただけでなく、アドベンチスト学校のすべての子どもたちも宇宙飛行士に会うことが出来ました。アイヴァンが神様に忠実で、表彰式で宇宙飛行士に会う代わりに安息日に教会で神様と過ごしたので、神様からの祝福が与えられたのです。

表彰式が終わって1人になった時、アイヴァンは神様の愛に感謝して、お祈りをしました。「あなたから生かされ、あなたからタラントを与えられていることに感謝します」

3年前の13回献金の一部はロシアのザオクスキーにあるアイヴァンの通うセブンスデー・アドベンチストの学校に新しい建物を建てるために使われました。もっと多くの子どもたちが、祈りを聞かれる神様を知ることができるよう、皆様の献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図を用いて子どもたちにロシアの位置を教えましょう。また、モスクワから100キロほど南にあるアイヴァンの故郷ザオクスキーの場所も示しましょう。
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/esd-2024.
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
 - 「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
 - 「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
 - 「青年が神を第一とし聖書的な世界観を実践できるよう支援する」（「霊的成長の目標」No.7）詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

- 有名なロシア人には、モダニズム画家のマルク・シャガール、劇作家のアントン・チェーホフ、バレエダンサーのミハイル・バリシニコフ、作曲家のピョートル・チャイコフスキー、チェスのガルリ・カスパロフ、政治家のミハイル・ゴルバチョフなどがいます。



4. 心臓にあいた穴

ウズベキスタン



レラ

ウズベキスタンのレラは心臓に穴があいた状態で生まれてきました。彼女が4歳の時、医者はこの穴を治すために手術をしないと、この子は死んでしまうだろうと言いました。

しかし、心臓手術をするにはたくさんのお金がかかります。レラの両親に十分なお金はなく、どうすればよいかわかりませんでした。一緒に住んでいたレラのおばあちゃんもお金はありませんでしたが、どうすればよいかは知っていました。おばあちゃんは、神様にお祈りをしました。「神様、どうか私の小さなレラちゃんが生きられるようにしてください」

その後、別の医者がレラの心臓のことを聞きました。彼女はクリスチャンでした。彼女はレラの家族に手術のためのお金がないことを知っていました。そこで彼女が調べてみたところ、親切な人々の寄付によって毎年ウズベキスタンの8人の子どもたちが韓国で無料の心臓手術を受けら

れることを知りました。彼女はレラがそのプログラムを受けられるように祈りました。

お祈りのあと、お母さんがレラのところに来て言いました。「あなたは韓国に行くのよ。韓国に行ったらアイスクリームを食べさせてもらえるわ。あなた、行きたい？」

レラはアイスクリームが好きでした。「ええ、行くわ」と彼女は言いました。

おばあちゃんも一緒に行きたいと言いました。彼女は自分の飛行機代を払うことはできました。しかし、韓国の親切な人たちから、それは出来ませんと言われました。「来ることができるのは子どもたちだけなのです」と彼らは言うのでした。

レラは他の7人の子どもたちと一緒に飛行機に乗って韓国に行きました。韓国で知らないお医者さんたちに会うのは勇気のいることでした。お医者さんたちはレラを診察することを少し恐れているように見えました。レラはみんなの中で一番小さく、一番年下でした。医者たちは彼女が手術のために選ばれたことに驚いていました。

「彼女はとても小さい」と医者の方の1人が言いました。

「どうして彼女がここへ来ることが、ゆるされたのだろう？」と別の医者が言いました。

しかし、彼らは最善を尽くすことを約束してくれました。

レラが到着して2日後、やさしい女のお医者さんがレラのところに来てたずねました。

「あなたの一番好きな食べ物はなにかしら？」

それは簡単な質問でした。

「アイスクリーム！」とレラは叫びました。

そのお医者さんはレラを店に連れていき、レラはピスタチオのアイスクリームを選びました。お医者さんは他の子どもたちにもアイスクリームを買ってくれました。

レラの手術は8人中、いちばん最後に行われま

した。医者たちは手術が終わると、手術は成功したと言いました。穴はなくなったのです。

2週間後、レラは飛行機に乗って家に帰りました。鉛筆、ノート、韓国に滞在中の写真が入ったアルバムでいっぱいになったスーツケースも一緒でした。それはお医者さんたちからの贈り物でした。

ウズベキスタンに戻ったレラはすぐに回復しました。彼女は病気や他の合併症を発症しませんでした。健康に問題はありませんでした。

お父さんは喜びました。お母さんも喜びました。けれども一番喜んだのはおばあちゃんだったかもしれません。

毎晩、おばあちゃんはレラを呼んで寝る前に一緒にお祈りしました。

老婦人と少女はベッドの横にひざまずきました。おばあちゃんが先に祈りました、

「私の孫娘のそば近くにおいて、韓国に行けるようにしてくださったことを感謝します。彼女に命を与えくださり、ありがとうございます」

次にレラが祈りました、

「神様、すべてを感謝します、アーメン」

現在、レラは健康そのものです。彼女はパフファンダークラブに所属し、教会で特別讃美歌を歌ったり、バイオリンを弾いたりしています。彼女の心臓に穴が開いていたことを思い起こさせる唯一のものは、胸の手術の傷跡だけです。

彼女は言います、

「この傷跡は神様が私の命を救ってくださったことを思い出させてくれます。もし、手術を受けていなかったら私は死んでいたでしょう。神様のお恵みです」

今期の13回献金の一部はレラが住むウズベキスタンに最初のセブンスデー・アドベンチスト小学校を開設するために用いられます。6月29日に向けて、献金のご準備を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 子どもたちに地図でウズベキスタンの位置を教えましょう。それからレラが4歳の時に手術を

受けた韓国の場所も教えましょう。今期の13回献金プロジェクトの一つはウズベキスタンに最初のセブンスデー・アドベンチスト小学校を開くことです。その開校予定地でもあるウズベキスタンの首都、タシケントの場所も子どもたちに示しましょう。

- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう：bit.ly/esd-2024.

- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。

「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)

「青年が神を第一とし、聖書的世界観を実践できるよう支援する」(「霊的成長の目標」No.7)
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

豆知識

- ウズベキスタンは毎年 80 トンの金を採掘しています。



5. 神の御手の中

ジョージア



カチク

皆さんは、椅子の正しい座り方を知っていますか？

カチクは自分のベビーチェアの正しい座り方を知っていました。

カチクはジョージアという国に住む幼い男の子です。彼は朝食、昼食、夕食のときには自分のお尻がベビーチェアにくっついていなければいけないことを知っていました。朝食、昼食、夕食のときに、お母さんはいつも彼をそのようにベビーチェアに座らせてくれました。

しかしある日、彼は何か新しいことをしてみようと決めました。

お母さんはマカロニとサワークリームのおいしい夕食を用意して、彼をベビーチェアに座らせました。カチクはマカロニとサワークリームが大好きでした。

しかしこの時、彼はいつものようにベビーチェアに座るよりも、肘掛けに座って食べるほうが

もっとおいしく食べられる気がしました。

カチクはもぞもぞとベビーチェアの座面から、肘掛けの上に座りました。彼は新しい自由が気に入りました。彼の足は夕食が乗ったベビーチェアの小さなテーブルの下に、もはや閉じ込められていないのです。

カチクはまた、この新しい景色も気に入りました。彼は部屋を見渡してからマカロニとサワークリームを一口食べました。

その時、彼は突然後ろ向きに落下しました。

お母さんはカチクがベビーチェアの肘掛けから落ちるのを見ました。彼女はキッチンにいて、息子からそれほど離れていたわけではありませんでしたが、彼をキャッチするには遠すぎました。

カチクは床に落ち、後頭部を強く打ってしまいました。

お母さんは叫び声をあげて、幼い息子へと走り寄りました。

数分間、カチクはまったく動きませんでした。彼の目は開いていて、一つの方角をぼんやりとながめていました。

お母さんは小さな男の子を腕の中に抱き寄せて祈りました、

「神様、どうぞこの子をお助けください。この子を私に返してください。もう二度とこのようなことは繰り返しません」

時間が止まっているように感じられました。

えっ、え〜ん！

突然カチクが泣き始めました。

その声を聞いて、お母さんはカチクが生まれた時、どんなふうに泣いていたかを思い出しました。

まるでもう一度生まれたみたいでした。

カチクの目がお母さんを見ました。その目は正常でした。彼にはお母さんが完全に見えていました。彼は何が起こったかを覚えていませんでしたが、頭が痛いことだけは確かでした。

しかし、お母さんは何が起こったか、わかっていました。それは恐ろしい経験でした。

お母さんは神様に感謝しました。「神様、息子を目覚めさせ、命を与えてくださってありがとうございます」

お母さんは救急車を呼びました。しかし、救急車が到着した時、救急隊員たちはカチクに何の異常も発見できませんでした。頭を強く打ちつけたにも関わらず、彼は無事でした。

「念のために病院に連れて行きましょう」と、救急隊員が言いました。

病院で医師の診察を受けたカチクに異常はまったく見当たりませんでした。彼は少し頭が痛いだけの健康な少年でした。

その日以来、お母さんは神様について新しい認識を持つようになりました。彼女はすべての人の命、すなわちカチクの命も、自分の命も含めて、みんなの命が神様の御手の中にあることを理解したのです。

彼女はそれを喜んでいます。それにカチクも喜んでいます。

「ぼくの命は神様の御手の中にあります」と彼は言っています。

今期の 13 回献金の一部はカチクが住むジョージアにヘルスセンターを開設するために用いられます。6 月 29 日に向けて、献金のご準備を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

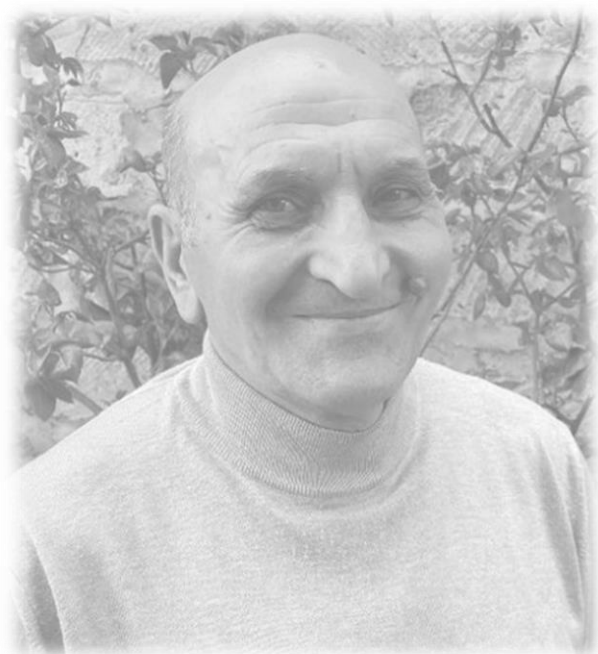
- 子どもたちに地図でジョージアの位置を示しましょう。また、今期の 13 回献金プロジェクトの一つであるヘルスセンターの開設予定地チャルトゥボも示しましょう。
- カチクのショートユーチューブビデオを見ましょう。bit.ly/Khachik-ESD.
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/esd-2024.
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No. 5）
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No. 6）
「青年が神を第一とし、聖書的世界観を実践できるよう支援する」（「霊的成長の目標」No. 7）
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

宣教メモ

- アルメニア出身のアメリカ人医師ヴァグラム・パンパイアン博士は、1904 年に妻と兄弟と共にトビリシに到着しました。彼は、グルジアにおける最初の公式なアドベンチストの宣教師でした。ラトビア出身で医学博士の青年アルバート・オゾルス牧師は、1907 年にグルジアのトビリシに到着しました。1914 年、彼は逮捕され、シベリアに送られました。その途中、彼は囚人の患者を治療しました。

6. 未来を知っているお方

アルメニア



ヤコブ

アルメニアに住むローザおばあさんは、将来について不安を抱いていました。明日は何が起こるのか？ 自分は健康でいられるのか？ 家族は無事でいられるのか？ たくさんの孫ができるのか？

彼女はそれらの答えを見つけようと決心しました。彼女は、以前、お金を払えば将来のことを教えてくれるという占い師の話を聞いたことがありました。

その占い師はローザおばあさんの家から少しばかり離れたところに住んでいました。そこは歩いて行くには遠すぎます。バス也没有。そこでローザおばあさんは、路上でタクシーを呼びました。

「どちらまで？」とタクシーの運転手はたずねました。

ローザおばあさんは占い師に会いに行きたいと言って、住所を伝えました。

「どうして占い師のところに行きたいのかね？」とタクシーの運転手は言いました。「未来を知っているのは神様だけです。神様に聞いたほうがいいよ」

ローザおばあさんは神様についてもっと知りたくなりました。アルメニアには何百年も前からクリスチャンたちが住んでいました。事実、アルメニアは西暦301年に世界で初めてキリスト教を正式に認めた国でした。しかし、1964年現在、キリスト教は違法とされていました。アルメニアは神の存在を否定するソビエト連邦の一部でした。神について話したり、聖書を読んだりする人々は刑務所に入れられるかもしれません。

タクシーの運転手は、「私の名前はガーニクです。占い師のところに行く代わりに私の家に来ませんか。あなたに神様についてお話ししましょう」と言いました。

ローザおばあさんはその言葉を聞き入れました。ガーニクは聖書を開いて彼女に天地を造られた神様について教えました。そして、安息日にまたここへ来るよう彼女を招きました。町にはセブンスデー・アドベンチスト教会はなく、安息日に何人かのアドベンチスト信徒たちがガーニクの家が集まっていたのです。

毎週安息日、ローザおばあさんはガーニクと他のアドベンチスト信徒たちと一緒に礼拝するようになりました。礼拝するうちに、神様は人々が占い師のところに行くのを禁じておられることを知りました。聖書には「魔術師、占い師、まじない師、蛇使い、霊媒師、魔法使い、呪術師も赦されません。これらを行う者は、主に嫌われ憎まれます」(申命記18:10～12 リビングバイブル)と書かれています。

ローザおばあさんはまた、未来のことを知っておられるのは神様だけです、と言ったタクシーの

運転手の言葉が正しかったことを知りました。聖書に「人々があなたがたにむかって『さえずるように、ささやくように語る巫子および魔術者に求めよ』という時、民は自分たちの神に求むべきではないか。生ける者のために死んだ者に求めるであろうか」(イザヤ 8:19 口語訳)と書かれているからです。

ローザおばあさんは自分の心を神様におさげし、バプテスマを受けました。それ以来、彼女はもう将来のことを心配しなくなりました。心配する代わりに、彼女は将来について神様に話すようになったのです。彼女は自分の健康が守られるように神様にお願いしました。また家族がいつも守られるようにお願いしました。彼女は孫たちやその他の家族を救ってくださるよう神様にお願いしました。

長い年月がたち、彼女の孫息子の 1 人であるヤコブは、安息日ごとにタクシーの運転手の家の教会で、彼女と一緒に礼拝するようになりました。その後、彼女の 4 人の娘のうちの 1 人がバプテスマを受けました。ローザおばあさんは家族のために祈り続けました。家族全員が神様を信じて救われる未来が訪れるように祈ったのです。

その後、ソビエト連邦は崩壊し、アルメニアは人々が自由に神様を信じることができる独立国となりました。

悲しいことに、ローザおばあさんはその 1 年後、68 歳で亡くなりました。しかし、彼女の生前の祈りを神様はお忘れになりませんでした。葬儀に集まった彼女の家族は、彼女を愛していた 2 名のアドベンチスト信徒たちが神の愛について語るのを聞きました。それを聞いて感動した彼らは、聖書を読み始めました。

1 年後、ローザおばあさんの家族 9 人がバプテスマを受けました。その中には彼女の 1 人息子、娘たち数名、そして彼女とタクシーの運転手の家で礼拝していたヤコブを含む、多くの孫が含まれていました。

ヤコブは自宅で安息日礼拝の集会を持つようになりました。そこにより多くの家族が集まるようになり、バプテスマを受けるにつれてその家は

手狭になりました。ヤコブは安息日の集会のために建物を借りなくてはなりませんでした。

ローザおばあさんが家族の良き将来のために祈った時、彼女は、神様がその祈りに応えられ、この町に彼女の家族でいっぱいになった教会ができるとは想像しなかったことでしょう。現在、約 30 名の人々がその教会で毎安息日、神様を礼拝しています。

アルメニア中にアドベンチスト教会が建つよう力を尽くしてきたヤコブさんは、イエス様が再臨される時、ローザおばあさんに会うのを心待ちにしています。

「彼女は祈りの結果を知って驚くでしょう。まるまる一つの教会が出来たのですから！」と、ヤコブさんは言っています。

今期の 13 回献金の一部はアルメニアの多くの家族が神を知ることのできる感化センターを開設するために用いられます。6 月 29 日に向けて、献金をご準備くださり感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 子どもたちに地図でアルメニアの位置を教えましょう。それからヤコブの住んでいるガバル、そして国の首都、かつ今期の 13 回献金プロジェクトの一つである家族のための感化センターの開所予定地エレバン の場所も知らせましょう。
- この話に出てくるヤコブの名前は、アブラハムの孫ヤコブやキリスト 12 使徒に含まれていたヤコブを意味するものです。
- ヤコブのショートユーチューブビデオを見てみましょう。 bit.ly/Yakov-ESD
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/esd-2024
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の

具体例です。

「霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）

詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。